

# ハニ ファ ビント ステファン スウェ デン出身の元キリスト教徒

:

明:大学での多文化交流をもとに、ハニ ファは心を き、イスラ ムを します。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ハニ ファ ビント ステファン

日 3 Feb 2015

集日 24 Feb 2015



私がイスラ ムを自分の宗教にしようと初めて考え出したのは、15 の でした。高校の宗 教テキストにあった、スウェ デン人女性の改宗 は、もし私がムスリムになったなら、 それはどのように私の人生を えるのだろうかと考えさせたのです。

その女性は にスカ フを被り、秘 として いていると述べました。私はイスラ ムに する知の欠如から、そのことに激しいショックを受けました。一体なぜ、彼女はそんなものを に着けているのか?そのような女性を雇う人などいるはずもないのに?

私は、もしそうしたなら目立ってしまい、望む仕事に就くことは 理だろうから、自分がしてムスリムになることはないだろうと 付けました。こうした考え方は、私の育った 境に大きく影 されていたと思います。私の は真面目で勤勉ですが、宗教の必要性については理解していません。二人は、人生の意味とはその中で何をしたかというだけのもので、その は何もなく、私たちは となるだけなのだと言います。

とはいえ、母はプロテスタント教会の と 理に敬意を示し、幼い に私を子どもグル プに入れさせましたし、14 のときには宗教クラスに通いたいかどうかと私に ねて来ました。

私も、それが最善だと思い同意しました。ひょっとしたら、私は になってそれに行かなかったことを 悔するかもしれないと思ったからです。また、そのクラスに行くことは面白いものでした。私たちは を描いたり、歌を歌ったり、演 をしたり、キャンプに行ったりしました。私たちの周りには、真 な人が少なく、大半はただしきたりだったから来たのであり、一 のクラスがやっと 了すると、 戚などからアクセサリ やお金、り物を ったり、教会のセレモニ に参加したりしたのです。

この から、私はキリスト教に して い疑念を抱くようになったのを えています。私はバ イブルを みましたが、それは私の求めていたものを与えてはくれませんでした。私は何かを探し求めてはいましたが、それが何かは自分でも分かりませんでした。私は占星 や瞑想などを学びましたが、それらは私をさらに混乱させました。

私は「スピリチュアル日 」を付けることにしました。それは小さな本で、そこに宗教的 非宗教的なこと等を色々とき しました。バ イブルからの引用、ヒンズ 教のマントラ、歌 、その他の私にとって意味のあるものを集めました。

私は16で中等教育を 始しました。私は郊外の小さな街に住んでいたため、都市部の大きな学校に 校する必要がありました。私は最も 判の良い学校を びました。そこに非常に多くの外国人がいることは、そのときは知りませんでした。

学校に通い始めてすぐの は、全然 しいとは思えませんでした。私は 攻を 更することに し、メディアから言 に移り、 一人として知らないクラスに入りました。私に最初に 切に しかけてくれたのは、アフリカ人や、スカ フを ったイラク人の女子生徒たちでした。彼女らは私にとって非常にエキゾチックな存在でした。それまでの人生で、私は自分と同じ出自の人々に まれてきましたが、そのとき初めて なる文化や生活 式に接するようになったのです。

私は特に、イラク人の女子生徒に 味を持ち、彼女と多くの を ごすようになり、彼女の友人たちとも しくなりました。私はスウェ デン人の友人がいないスウェ デン人として有名になりました。私にとっては、それが格好の良いことに思えました。私は一般的な人々から距 を置きたかったのです。

私の学校のムスリムたちは、 にイスラ ムに して活 な をしましたが、それは私をととても感心させました。私は、なぜこの宗教は彼らの人生において活 的な位置を占めているのだろうかと思ったものです。キリスト教とは い、それは死んではおらず、生きたものだったのです。そしてそれは、彼らの人生におけるあらゆることに影 を及ぼしていました。

ある日、父と古本市 に行ったとき、クルア ンのスウェ デン を つけました。世界史の勉のため、また友人たちの宗教へのより良い理解のためにそれを 入することにしました。

それ以来、私の日 にはイスラ ム的なものも加わるようになりました。私は 扉章であるアル=ファ ティハ章とその を き しました。また、それを暗 もしました。そうすることの目的はありませんでしたが、ただ 味本位でやってみたのです。

しばらくすると、私はクルアーン けになっていました。私は真の宝をつけたと感じました。そこには、理的に明することの出来ない、私を惹きつける何かがありました。この本は洋学者によるもので、重大な りもいくつかあったのですが、特に酷かったのは、者が の 番に いがあると指摘していたことです。アルハムドゥリッラ（神に えあれ）、私は友人に ねることによって真を知る事が出来ました。

私はイラク人の友人に、イスラームに 味があることを えました。彼女は非常に き、目眩のため座り まなければならなかった程でした。少し って落ち着くと、彼女は私を 地のイスラーム 体に入れて行き、本やパンフレット、また の改宗スウェデン人ムスリム女性の番号などをくれました。

私は改宗の事を知った家族がどう言うか がかりでしたが、母はやはり激高しました。家族全 は私の部屋を物色し、イスラームの本を破 しました。彼らはイスラームはカルト宗教だと言い、私が洗 されていると言いました。

しかし、そのことは私を思い止まらせたりはしませんでした。2001年の7月、私は公にシャハダ（信仰 言）をしました。私は以前、 番号をもらっていた改宗スウェデン人女性に をかけ、彼女は自宅でイスラームのレッスンを施してくれました。私は彼女の住む集合住宅を れ、そのの庭 で彼女と一 にズフル（午刻）の礼 をしました。この社会では、公の で崇 行 をすることは嫌 されることであったため、私にとってそれは象 的な行 でした。私はとても自由を感じ、他の人々が何を考えているかなどはどうでも良いことでした。

朗らかに声を大にして言った次の言 が、私の人生に最も大きな影 を与えたことに疑い はありません。

「アシュハドゥ アッラ イラ ハ イッラッラ、ワ アシュハドゥ アンナ ムハンマダン ラス ルッラ

私はアッラ 以外に崇 に する神はなく、ムハンマドがアッラ の使徒であることを 言します。」

この言 よりも私の人生を左右した言 は他に存在しないのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1653>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。